

令和2年度に重点的に取り組む項目・新たに取り組む項目（盛岡広域振興局）

資料 1 - 1

地域振興プランにおける振興施策の基本方向 I 圏域内の中心都市と近隣の市町とのつながりを生かし、一人ひとりが快適で安全・安心に暮らせる地域

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容
1 生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります (1) 保健福祉	【体の健康づくりの推進】 ・脳血管疾患年齢調整死亡率の増加、児童・生徒の肥満が増加傾向にあることから、地域の健康づくりに対する継続した支援が必要 ・女性喫煙率及び男性肺がん年齢調整死亡率が増加傾向にあることから、若年期から禁煙教育・指導の強化が必要 (今年度の主な取組) ・健康づくりチャレンジ事業の実施（41事業所） ・学校、事業所への健康づくり出前講座（10回） ・生活保護世帯員に対する健康増進のための生活習慣改善指導の実施（52件） ・改正健康増進法（受動喫煙対策）の周知（9回）	1 体の健康づくりの推進 ・事業所の健康経営、学校や家庭等における健康づくりの取組を支援 2 禁煙・受動喫煙防止対策の推進 ・若年期からの禁煙教育等の普及啓発 ・受動喫煙防止対策についての普及啓発	1 体の健康づくりの推進 ・児童生徒から働き盛り世代、高齢者まで地域における住民の健康づくりの取組を支援（歩数・血圧・内臓脂肪・家庭の食事の塩分測定等） ・生活保護世帯等の状況に応じた健康情報の提供と各種検診の受診を促進 2 禁煙・受動喫煙防止対策の推進 ・学校での未成年者の喫煙を防ぐ防煙、禁煙教室の実施 ・事業所での受動喫煙防止講座の実施
	【こころの健康づくりの推進】 ・保健所別自殺者数及び自殺死亡率では、県央保健所管内（盛岡市を除く）は3番目に高く、特に10代の死亡率が全県の約3倍となっており、生きることを包括的に支援することが必要 (今年度の主な取組) ・盛岡圏域自殺対策ネットワーク連絡会（2回） ・子どものSOSの受け止め方研修（9月、60人参加） ・ゲートキーパー養成研修（4回、210人参加） ・断酒会員によるアルコール相談会の開催（6回、5人参加）	1 こころの健康づくりの推進 ・子ども・若者支援 ・働き盛り世代への支援 ・高齢者支援 ・生活困窮者支援 ・健康問題対策	1 こころの健康づくりの推進 ・いのちの教育として動物の愛護・保護活動を実施 ・SOSの出し方、子どもの出したSOSの受け止め方に係る啓発 ・事業所等でのからだと心のサポート講座の実施 ・傾聴・精神保健ボランティアのフォローアップ ・生活困窮者の早期発見及び精神保健相談等による支援 ・一般診療科医と精神科医との連携の推進
	【住民同士が互いに認め合い、互いに支え合う地域づくり】 ・高齢者や障がい者等に対する地域住民の理解及び関係施設が不足 ・医療職・介護職の人材確保が必要 (今年度の主な取組) ・盛岡広域圏及び市町障がい者自立支援協議会への参加（14回） ・生活困窮者自立支援事業の学習支援に参加している中学生等を対象とした、医療や介護の仕事の魅力や就学支援制度を周知するセミナーの開催（1月予定）	1 地域のみんで支える包括的支援 ・グループホームの設置等に係る住民の理解促進 2 医療と福祉の人材育成・確保の取組 ・医療・福祉の仕事魅力や就学支援制度のPR	1 地域のみんで支える包括的支援 ・管内の障がい者自立支援協議会を通じて住民の理解を促進 2 医療と福祉の人材育成・確保の取組 ・学校への医療介護出前講座や医療機関・介護施設を会場とした中高生向けセミナーを開催

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における 施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容
<p>1 生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくります</p> <p>(1) 保健福祉</p>	<p>【「生きにくさ」を抱えた人に寄り添ったきめ細かな支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひきこもり」者や生活に困窮している者は、それぞれに複合的な課題（生きにくさ）を抱えており、自立し得る環境（生きやすさ）の形成が必要 ・就労を通じた社会参加の推進にあたり、就労先（民間事業者）の開拓・協力が必要 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキング・インクルージョン推進ネットワーク会議の設置（8月） ・「中間的就労」に係る先進地視察の実施（11月、17人参加） ・ワークショップの実施（12月予定） </div>	<p>1 生活困窮者の早期発見・早期支援の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政内各部署との連携強化による、生活困窮者等の早期把握及び適切な支援 <p>2 地域で支える就労を通じた社会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者に対する普及啓発 ・自分らしい就労を通じた社会参加（ワーキング・インクルージョン）を推進する、官民が一体となったネットワークの形成と事業者の育成、支援 	<p>1 生活困窮者の早期発見・早期支援の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政、社協、民生委員等地域の関係機関による支援態勢を整備し、要支援者の早期発見及び適切な支援を実施 <p>2 地域で支える就労を通じた社会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中間的就労」に係る先進地視察の実施等による事業者への普及啓発 ・「中間的就労の場」モデル事業の実施【新規】 ・農林業等、福祉以外の事業者との連携による多様な就労の場の確保
	<p>【安心して子どもを生き育てられる環境づくり】</p> <p>1 子どもに対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的な理由で学習機会に恵まれない子どもへの支援が必要 <p>2 保護者に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮世帯の子育てに係る課題を把握し、生活支援及び養育支援を行うことが必要 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども学習会の実施（168回） ・巡回訪問型の学習・養育支援の実施（79回） ・学習合宿の実施（8月、29人参加） ・大学等訪問の実施（2校、12月～1月予定） </div>	<p>1 子どもに対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中高生等の学習の場と居場所の確保 <p>2 保護者に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の抱える子育てや子どもの学習、生活環境の悩みに寄り添った支援の充実 	<p>1 子どもに対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中高生等を対象とした学習会と「子ども食堂」との連携による子どもの居場所づくりを推進 ・中学生を対象とした学習合宿や大学等訪問を実施 <p>2 保護者に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生のいる生活保護世帯を対象として、巡回訪問型の、子どもへの学習支援及び保護者への養育支援を実施

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容
<p>1 生きがいに満ち、健康で安心して生活し続けることができる絆の強い地域社会をつくりま</p> <p>(2) 文化スポーツ</p>	<p>【文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術に関心のある方々がジャンルを問わず活動できる環境を整備することにより、地域への愛着の醸成や地域の新たな魅力づくりにつなげることが必要 <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「鉄道芸術祭 inIGR2019」の開催 平田オリザ氏を招いてのワークショップ及び講演会（10月、150人参加）、学生立案のIGRを利用したツアーの実施（10月、24人参加） <p>【スポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度から総合型地域スポーツクラブ登録認証制度が運用開始されるため、各クラブが認証を取得できるよう支援が必要 台湾とスポーツアクティビティを通じた交流を展開できる仕組みづくりが必要 <p>(今年度の主な取組)</p> <p>(1) 生涯スポーツの推進（(一社)盛岡市総合型地域スポーツクラブと連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> 既設のクラブにおけるモデル講習プログラムの開催支援（3回予定） クラブの創設に向けた設立準備委員会等の開催支援（盛岡市玉山地区） クラブ活動の活性化に向けた研修会等の開催（3回予定） クラブの新設に向けたヒアリング調査等の実施（八幡平市） <p>(2) スポーツツーリズムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 管内8市町に対するヒアリング調査の実施 国内及び台湾におけるサイクルツーリズムについての情報収集 管内市町等とのサイクルツーリズムに係る連絡会議の開催（1回予定） 	<p>1 地域の特色や人材等を活用した文化芸術体験機会の創出</p> <p>2 文化・スポーツ・食のコラボレーションによる地域の新たな魅力づくり</p> <p>1 総合型地域スポーツクラブの経営基盤強化の支援</p> <p>2 台湾とのスポーツ交流の促進</p>	<p>1 地域の特色や人材等を活用した文化芸術体験機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生・若者をはじめとする多様な主体が参加する文化芸術活動ワークショップの開催 <p>2 文化・スポーツ・食のコラボレーションによる地域の新たな魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 食・スポーツ・歴史文化を融合した塩の道トレイルランの推進【拡充】 <p>1 総合型地域スポーツクラブの経営基盤強化の支援【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認証制度の周知及び活動基盤強化を目的としたセミナーの開催 <p>2 台湾とのスポーツ交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツアクティビティ関係者等との情報交換によるスポーツ交流の推進（自転車、マラソン等）
<p>2 豊かな環境が保全され、自然の恵みを将来にわたって享受できる地域社会をつくりま</p>	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然を引き継ぐ子ども達の環境学習を支援する人材育成が必要 環境保全活動に携わる団体や事業所等の連携を図る機会が必要 住民等、特に子どもたちが地域の豊かな自然について、理解を深める機会が必要 <p>(今年度の主な取組)</p> <p>(1) 人材育成事業（テーマは「森」）</p> <p>「りば～るくんの郷づくりパートナー養成事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎研修（6月、10人参加） 現地研修（8月、7人参加） パートナー実習（9月、10月） <p>(2) 環境保全連携促進イベントの開催</p> <p>（紫波町オガール 11月、41人参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> りば～るくんの郷づくりパートナー認定証交付式を併せて実施（4名に交付） 	<p>1 環境保全活動に関わる人材の育成</p> <p>2 環境保全活動における連携の推進</p> <p>3 環境保全に係る普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 流域イメージキャラクター「りば～るくん」を活用した啓発を実施 <div data-bbox="1656 1528 1813 1793" data-label="Image"> </div> <p>流域イメージキャラクター「りば～るくん」</p>	<p>1 環境保全活動に関わる人材の育成【拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> 希少生物の保護等をテーマとした研修等を開催 <p>2 環境保全活動連携事業【拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境団体と環境保全活動に取り組む事業者等との環境保全活動状況等に関わる情報共有、協働連携等の推進を図るイベントを開催 <p>3 環境保全に係る普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 「りば～るくん」グッズを活用した環境保全の大切さについての普及啓発

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容
<p>3 歴史と文化を継承しながら、新たなつながりや活力を感じられる地域づくりを進めます</p>	<p>・関係人口の創出や移住・定住の促進に向けて、管内市町それぞれの強みをつないで広域として取り組んでいくことが必要</p> <p>・地域コミュニティの機能低下が危惧されており、コミュニティの維持・活性化に向けた取組が必要</p> <p>・I L Cの実現に向けた機運をより一層高めていくことが必要</p> <div data-bbox="507 562 1285 825" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏での盛岡広域暮らしセミナーの開催(8月、23人参加) ・地域コミュニティ担当者研修会の開催(11月、30人参加) ・小中学生向けI L C出前授業の実施(6回、177人) ・商業施設でのI L Cイベントの開催(1回)等 </div>	<p>1 8市町の強みを生かした関係人口、移住・定住人口の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡広域のファンづくりや移住定住の取組を推進 ・持続可能な地域づくりに向けて管内市町が抱える地域コミュニティの課題解決に向けた支援 <p>2 I L Cの意識啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・I L C誘致の機運をさらに高めるため、普及啓発を強化 	<p>1 8市町の強みを生かした関係人口、移住・定住人口の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏での盛岡広域暮らしセミナーの開催(1回) ・地域コミュニティの課題解決をテーマとした研修会の開催(1回) <p>2 I L Cの意識啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生向けI L C出前授業の実施(8回)【拡充】 ・小中学校教員等を対象としたI L C研修の開催(1回)【新規】 ・商業施設や大学等との連携によるI L Cイベントの開催
<p>4 過去の教訓を踏まえた防災対策を進めます</p>	<p>・豪雨災害の多発に伴う再度災害防止対策の優先により事前防災対策への予算確保が困難となること等による対策の長期化を想定</p> <p>・災害に強く信頼性の高い道路ネットワークを形成するため、緊急輸送道路等の防災機能強化が必要</p> <p>・住民の的確な避難行動を導く災害関連情報のさらなる充実が必要</p> <div data-bbox="507 1150 1285 1350" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川改修事業(一級河川北上川ほか4河川) ・築川ダム建設事業 ・橋梁補強事業(一般国道396号乙部館橋ほか2橋) ・土砂災害危険箇所の住民説明会(185箇所) </div>	<p>1 治水安全度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川整備や築川ダム建設の推進 <p>2 地震に強い社会資本の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁の耐震化の推進 <p>3 災害関連情報の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水位周知河川の指定の推進 ・土砂災害危険箇所の住民説明会の推進 	<p>1 治水安全度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川事業 ・築川ダム建設事業(令和3年3月完成予定) <p>2 地震に強い社会資本の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁補強事業 <p>3 災害関連情報の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水位周知河川の指定 ・土砂災害危険箇所の住民説明会の開催
<p>5 安心・快適な都市環境・生活環境をつくりまします</p>	<p>・岩手医科大学移転に伴う交通状況の変化への対応が必要</p> <p>・高齢化社会に対応した県営住宅の建替え・改善が必要</p> <p>・通学路等安全・安心な歩行空間及び自転車通行空間の確保が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁の予防保全型の維持管理が必要 ・社会資本を支える建設業の担い手の確保が必要 <div data-bbox="507 1644 1285 1957" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画街路事業等((主)盛岡環状線ほか4路線) ・県営住宅ストック改善事業(境田AP) ・交通安全施設整備事業等((一)雫石東八幡平線ほか7工区) ・橋梁補修事業(一般国道106号飛鳥橋ほか4橋) ・管内中学を対象とした建設業の体験学習(6校) ・県民を対象とした建設業の現場見学(1回) </div>	<p>1 高次都市機能の充実</p> <p>2 安全・安心な歩行空間等の確保</p> <p>3 社会資本の計画的な維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期に修繕が必要な橋梁対策の推進 ・建設業の担い手確保への支援 	<p>1 高次都市機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通混雑が緩和される街路等の整備 ・県営住宅等長寿命化計画の見直し <p>2 安全・安心な歩行空間等の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全施設の整備 <p>3 社会資本の計画的な維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期に修繕が必要な橋梁の対策 ・中学生を対象とした体験学習、女子学生等と女性技術者との意見交換会【再掲】

地域振興プランにおける振興施策の基本方向 II IT産業などの集積や豊富な農林資源を生かし、競争力の高い魅力のある産業が展開している地域

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における 施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容
<p>6 産学官金連携によるIT産業の育成やものづくり産業の振興に取り組みます</p>	<p>・IoTなど第4次産業革命技術のものづくりや農林業への導入を促進し、生産性の向上や新商品開発の促進等が必要</p> <p>(今年度の主な取組) 【IT・ものづくり】 ・紫波新技術研究会への支援（研究開発支援、JCA補助金獲得支援） ・プログラミング教育参入支援WSの実施（紫波町立古館小学校でのモデル授業（6年生 全10回）） ・管内IT企業と首都圏展示会「ET/IoT展」への共同出展（11/20～22（横浜パシフィコ）） ・岩手×東京×IT～いわて未来ミーティング～の開催（2月予定（東京都：都道府県会館）） 【農業】 ・環境制御技術の普及推進に向けて、盛岡地域環境制御研究会を設立（会員29経営体）し、研修会等を実施 ・国庫事業を活用し、土地利用策型野菜のスマート農業技術一貫体系実証を実施（1経営体） ・アシストスーツの実証（ぶどう 4経営体） 【林業】 ・林業事業体等への空調服貸出及びアンケート調査（10着） ・ドローン活用のためのコストの調査（1回）</p>	<p>1 第4次産業革命技術の導入促進・IoT導入に対する普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IoT等導入に係る普及啓発 ・管内IT企業と北上川流域ものづくり企業とのマッチング ・農林業分野におけるIoT技術等の普及促進 ・第4次産業革命技術についての見識を有する首都圏人材とのネットワークの構築 	<p>1 スマートインダストリー推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) IoT等導入の普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・県南局と連携したIoTセミナーの開催（経営者等を対象として8月中旬に開催） ・IoT機器の紹介、実演などによる普及啓発活動の推進【新規】 ・IT連携コーディネーターの設置 (2) IT企業とものづくり企業とのマッチング <p>2 スマート農林業推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 小学生等を対象としたスマート農業学習会の開催【新規】 (2) スマート農業活用実証・展示による技術の普及（自動操舵補助システム、自動収穫機の実証等） (3) 環境制御技術の普及 (4) 牛群管理システムを活用した飼養管理の実証【新規】 (5) 林業分野における新技術導入の促進（空調服の効果のモニタリング、ドローン活用のコスト分析） <p>3 首都圏のIT・ものづくり関係者等と県内企業人とのネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわて未来ミーティング（仮称）の開催【拡充】

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における 施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容																					
<p>7 観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します</p> <p>(1) 観光産業</p>	<p>1 平成30年の管内の観光地点等入込客数は9,774千人回と微増傾向。管内の外国人観光客入込数は170千人回と過去最高を更新 (単位：千人・回)</p> <table border="1" data-bbox="519 394 1157 535"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入込客数</td> <td>9,396</td> <td>9,504</td> <td>9,774</td> </tr> <tr> <td>外国人観光客入込数</td> <td>74</td> <td>117</td> <td>170</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 平成30年の本県の観光消費額単価は、前年を下回っており、観光消費額の増加につながる取組が急務 (単位：円/人・回)</p> <table border="1" data-bbox="519 751 1172 892"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県外宿泊者</td> <td>32,488</td> <td>30,853</td> </tr> <tr> <td>外国人宿泊者</td> <td>40,617</td> <td>28,271</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 台湾台中エリアと管内との交流が活発化し、民間団体を中心とする交流拡大の機運が醸成</p> <p>(今年度の主な取組)</p> <p>(1) 広域連携観光魅力づくり推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春：桜と雪の回廊観光キャンペーン (1,096人参加) ・冬：酒蔵等と連携したスタンプラリー SNS投稿キャンペーン <p>(2) 外国人観光客等市場開拓事業 (6月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台中国際旅行展でのPR活動 ・台湾の親日民間団体への表敬 <p>(3) 台湾知日協会との交流 (10月、11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会の際に管内特産品の展示販売等を実施 <p>(4) 外国人観光客受入環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行口コミセミナー等の開催 (1月下旬予定) <p>(5) 県境連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー層等少人数向け観光情報発信 		H28	H29	H30	入込客数	9,396	9,504	9,774	外国人観光客入込数	74	117	170		H29	H30	県外宿泊者	32,488	30,853	外国人宿泊者	40,617	28,271	<p>1 観光消費額の増加や新たな観光客の掘り起こし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツの発掘・磨き上げ ・尖った観光資源や体験メニューを活かした新たなファンづくりの推進  <p>(ドラゴンアイ)</p> <p>2 台湾との観光経済交流を拡大し、多様な分野での交流を更に発展的に展開できる仕組みを構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンツーリズムコンテンツやスポーツを活かした新たな交流の推進 	<p>1 広域連携観光魅力づくり推進事業</p> <p>(1) 観光消費額の向上に寄与するコンテンツ作成【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コト体験を中心とした新たなコンテンツの発掘・既存コンテンツの磨き上げ勉強会の開催 ・旅行会社への新たなコンテンツ、周遊ルートの提案 ・東北DC等に向けた観光情報の更新・磨き上げ <p>(2) 桜と雪の回廊・ドラゴンアイの魅力発信【拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ドラゴンアイ」のブランド化に向けた情報発信の強化 (春キャンペーン期間の拡大、トリップアドバイザーを活用したクチコミ発信の強化) ※秋田県との連携 <p>(3) 8市町のお酒をつないだ広域周遊の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒蔵スタンプラリーの実施 ※県南エリアの酒蔵とも連携 <p>2 外国人観光客等市場開拓事業</p> <p>(1) グリーンツーリズムコンテンツやスポーツを活かした新たな交流の推進【新規 経営企画部・農政部連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光消費額の向上に寄与するコンテンツ作成【再掲】 食(文化)、体験(農業等)、文化、スポーツなど ・農家民宿・観光農園等を生かしたファームステイの受入れ態勢整備 (インバウンド受入セミナーの開催、受入農家等を対象とした「食の匠」との食の技交流・情報交換会を開催) ・訪日教育旅行等のニーズ調査、企画立案、モニターツアー等の開催 ・スポーツアクティビティ関係者等との情報交換によるスポーツ交流の推進 (自転車、マラソン等)【再掲】 ・局の若手職員から政策提案があった、「インバウンドモデルの創設」の具体化 テーマの例：サイクルツーリズム、2次交通、情報発信、食資源の活用
	H28	H29	H30																					
入込客数	9,396	9,504	9,774																					
外国人観光客入込数	74	117	170																					
	H29	H30																						
県外宿泊者	32,488	30,853																						
外国人宿泊者	40,617	28,271																						

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における 施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容
<p>7 観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域経済を活性化します</p> <p>(2) 食産業及び地場産業</p>	<p>1 管内8市町の特徴のある食に関する資源、工芸等、地場産業を総合的に活用し、広域全体の産業振興を図ることが必要</p> <p>2 食産業や工芸等の地場産業の振興に向けて、地域をリードする若手事業者の育成と更なる販路拡大による収益の強化が必要</p> <p>3 「いわて塩の道」のコンテンツの活用により、歴史文化を共有する県北沿岸地域との連携による産業の活性化、交流人口の増加を図ることが必要</p> <p>4 職人の高齢化が進む伝統工芸産業を支える人材の育成が必要</p> <div data-bbox="528 919 1665 1276" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いわて短角和牛ヌーヴォー解禁フェスタ」の開催（4月、100人参加） ・東京都内のシェフ3名により、紫波フルーツパークほか県内9ヶ所の産地視察を実施。（7月） ・台湾「裕毛屋」において物産展を開催（11月、14業者出品） ・塩の道関連商品として、ざる豆腐「いわて塩の道とうふ」が商品化 ・「塩の道グルメフェア」の開催 盛岡、県北管内の31店舗参加（8/24～10/31） ・平庭闘牛大会しらかば場所、岩手町産業まつりほか3イベントで塩の道PRイベントを開催 </div> <div data-bbox="569 1308 1163 1688" style="text-align: center;">  </div> <p data-bbox="626 1696 1163 1770">（「いわて塩の道」にちなんで開発された新商品「いわて塩の道とうふ」）</p>	<p>1 地域の食産業及び伝統工芸をリードする中核的な人材（事業者）の育成とネットワークの形成</p> <p>2 売れる商品づくりや販路の開拓、情報発信力のより一層の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売れる商品づくりや販路開拓の支援 ・首都圏への情報発信 <p>3 食や伝統工芸と観光などを連携させた広域的な地域活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾との交流の強化 ・「いわて塩の道」を活用した食と観光の推進 	<p>【食産業】</p> <p>1 食産業関連事業者支援事業</p> <p>(1) 若手食産業事業者の人材育成 【拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手事業者による異業種交流プロジェクトの推進（「いわてソルトロード・短角ヌーヴォー企画委員会」による「いわて塩の道トレイルランニング2020in 岩手町」の開催等） (2) 産業創造アドバイザーの派遣等による商品の付加価値向上、地域力向上等のための指導 (3) 首都圏シェフ等の招聘による産地視察等の実施 <p>2 食産業販路拡大事業</p> <p>(1) 市町と連携した地域内商談会等の開催</p> <p>(2) 台湾との取引拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「裕毛屋」バイヤーを招聘しての商談会の開催 ・岩手県物産展の開催 ・乾しいたけの販売促進 ・台湾地域生協向け取引の開始 【拡充】 ・台湾知日協会と事業者とのマッチング <p>3 「いわて塩の道」プロジェクト事業 ※県北局と連携</p> <p>(1) 食・スポーツ・歴史文化を融合した塩の道トレイルランの推進 【拡充 再掲】</p> <p>(2) 「いわて塩の道」にちなんだ新商品の開発等</p> <p>(3) 「いわて塩の道」の情報誌等作成 【新規】</p> <p>【地場産業】</p> <p>1 地場産業関連事業者支援事業</p> <p>(1) 若手地場産業事業者の人材育成 【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲ある地場産業の若手によるネットワーク形成と新商品開発等の取組を支援（南部鉄器、木工、織物、安比塗など） ・事業者育成支援セミナーの開催 (2) 専門家の派遣等による商品の付加価値向上等に向けた指導 <p>2 地場産業販路拡大事業</p> <p>(1) 管内若手職人の作品を紹介する展示商談会を管内で開催 【新規】</p> <p>(2) 首都圏で開催する商談会（本庁事業）への参加による販路拡大</p>

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における 施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容
<p>8 米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と活力のある農村づくりを進めます</p>	<p>【企業の経営体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担い手の生産基盤強化に向けて、地域農業マスタープランの実質化が必要 中山間地域等における農地集積の促進が必要 大規模経営体や経営改善に意欲的な経営体の育成が必要 	<ol style="list-style-type: none"> 1 工程表に基づくマスタープラン実質化の推進 2 マスタープランに基づいた中心経営体への農地の集積・集約 3 支援経営体の経営高度化支援 	<ol style="list-style-type: none"> 1 工程表に基づくマスタープラン実質化の推進 <ul style="list-style-type: none"> 集落座談会への参画により地域での話し合いを支援 2 マスタープランに基づいた中心経営体への農地の集積・集約 <ul style="list-style-type: none"> 耕作条件の悪い農地の改善に取り組む地区や、ほ場整備実施地区での農地の集積・集約をプランの実質化により促進 3 経営改善に意欲的な経営体に対する支援 <ul style="list-style-type: none"> 支援経営体の「個別経営課題」に基づいたオーダーメイド型支援による個別指導
	<p>【担い手の確保・育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規就農者のさらなる確保に向けた情報の発信及び就農後の早期経営安定が必要 雇用就農者の離職防止に向けた農業法人等の雇用環境の改善が必要 高齢化や規模拡大に対応するため、農作業の効率化、労働強度の軽減や省力化が必要 雇用人材の安定的な確保が必要 	<ol style="list-style-type: none"> 1 新規就農者の確保・早期経営安定支援 <ul style="list-style-type: none"> 就農関連情報の発信強化 2 農業法人等の雇用環境の改善支援 3 スマート農業技術の導入支援 <ul style="list-style-type: none"> 労働強度の軽減等につながる技術の実証と普及 4 多様な働き手の確保 <ul style="list-style-type: none"> 農業、福祉等の関係機関との連携強化 	<ol style="list-style-type: none"> 1 新規就農者の確保及び早期経営安定支援 <ul style="list-style-type: none"> 新農業人フェアへの参加等による情報発信 小学生等を対象としたスマート農業学習会の開催【再掲】 2 農業法人等の雇用環境の改善支援 <ul style="list-style-type: none"> 労務管理等に関する研修会の開催等 3 スマート農業活用実証・展示による技術の普及【再掲】 4 多様な働き手の確保 <ul style="list-style-type: none"> 経営体と福祉事業者による農福連携事例見学会の開催【再掲】
	<p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域農業マスタープランの実質化に向けて、各市町に支援チームを設置 プランの実質化に向けて市町が作成した工程表の進捗支援 経営発展に意欲的な農業者を支援する「いわて農業経営相談センター」と連携し、農業改良普及センターを窓口とした「現地支援チーム」を設置 持続的な成長発展が期待される経営体（285 経営体）のうち、経営改善に意欲的な経営体を「支援経営体」として選定（52 経営体）し、経営体ごとに重点とする経営課題をカルテとして整理 		
	<p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規就農希望者に情報発信する「新農業人フェア（9月、1月）」を開催 農業大学校に雇用就農情報を発信する「オープンファーム（1月）」を開催 就農希望者のうち、就農計画の作成を支援（5人） 新規就農者に対してベテラン農家がマンツーマンの指導を行う体制の構築（マッチング事例2件） 関係機関と連携した就農後の経営状況の把握と個別巡回活動 求職希望者や福祉施設関係者等を対象とした農業体験見学会の開催（5月、18人参加） 		

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における 施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容
<p>8 米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と活力のある農村づくりを進めます</p>	<p>【水田フル活用による産地づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「銀河のしずく」の消費拡大PRの強化、作付面積拡大に伴う高品質安定生産技術の普及・徹底及び県版GAPの推進が必要 ・水田への高収益作物の導入・拡大が必要（春まきたまねぎ（加工用）及びにんにく） <p>（今年度の主な取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「銀河のしずく」の知名度向上に向けて、県内民間団体と連携した「すしの日」イベント等によるPRや県外での試食販売等を実施 ・高品質良食味米の安定生産のため、高い栽培技術を持つ生産者を「銀河のしずく生産者マイスター」に認定（19人） ・県版GAPの確認登録に向けて、生産者リーダー等を対象に研修会及び個別支援を実施（4人が確認登録） ・加工用春まき玉ねぎの集落営農モデルの確立に向けて、単収向上に向けた技術指導を実施 ・にんにくの新たな産地化に向けて、機械化一貫体系の導入実証を実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「銀河のしずく」の消費拡大に向けた県内・首都圏等でのPR ・子育て世代へのPR活動の推進 ・県内・首都圏での知名度の向上 2 「銀河のしずく」の高品質安定生産技術の普及と県版GAPの推進 3 春まきたまねぎ（加工用）の集落営農モデルの確立と普及 4 八幡平地域にんにく産地拡大プロジェクトの展開 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「銀河のしずく」消費拡大に向けた県内・首都圏等でのPR ・子育て世代を対象とした親子deごはん教室の開催【新規】 ・県内の発信力の高い外食店やホテル等と連携した情報発信の強化【新規】 2 「銀河のしずく」の高品質安定生産技術の普及と県版GAPの推進 ・適正追肥等技術の指導、県版GAPに関する研修会の開催等 3 春まきたまねぎ（加工用）の集落営農モデルの確立と普及 ・単収向上技術の実践指導、機械化体系モデルの提示と普及 4 八幡平地域にんにく産地拡大プロジェクトの展開 ・にんにく1億円産地確立に向けたオリジナル品種「八幡平バイオレット」等の生産拡大とブランド化の推進（適正栽培法の確立、高付加価値化、販路の拡大等）【新規】
	<p>【園芸の産地力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な環境制御技術を導入する経営体が増加しており、技術・経営力向上及び環境制御技術のさらなる普及が必要 ・土地利用型野菜のスマート農業技術一貫体系の構築と普及に向けた取組が必要 <p>（今年度の主な取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境制御技術の普及推進に向けて、盛岡地域環境制御研究会を設立し（会員29経営体）、研修会等を実施【再掲】 ・スマート農業技術の開発・実証プロジェクト【国庫】を活用し、土地利用型野菜のスマート農業技術一貫体系実証を実施（1経営体）【再掲】 	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境制御技術の普及 2 土地利用型野菜のスマート農業技術実証と普及 	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境制御技術の普及【再掲】 ・環境制御技術導入経営体に対する技術・経営力向上に向けた個別重点支援 2 土地利用型野菜のスマート農業技術実証と普及【再掲】 ・自動操舵補助システム・自動収穫機等の実証、現地適応性の高い技術体系の提示 ・スマート農業技術実演会等による実証事業成果等の情報発信

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における 施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容
<p>8 米・園芸・畜産のバランスがとれた農業の持続的発展と活力のある農村づくりを進めます</p>	<p>【畜産の収益向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼養戸数、頭数ともに減少傾向にある中、綿密な経営計画の作成と飼養管理技術の向上が必要 ・県平均より長い平均分娩間隔の短縮による生産性の向上が必要 <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポートチームによる規模拡大農家の牛舎設計や経営計画の作成支援及び施設整備後の経営安定化に向けたフォローアップ等（計画等作成支援9戸、フォローアップ5戸） ・分娩間隔短縮に向けた個別繁殖巡回指導（17戸） 	<p>1 サポートチームによる個別経営体の規模拡大支援</p> <p>2 IoT・AIの活用実証による飼養管理技術の向上支援</p>	<p>1 サポートチームによる個別経営体の規模拡大支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規模拡大志向経営体の経営計画作成支援及びフォローアップ <p>2 IoT・AIの活用実証による飼養管理技術の向上支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛群管理システムによる飼養管理の実証【再掲】
	<p>【地域資源の維持保全による農村の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の維持保全による中山間地域活性化の取組の機運醸成が必要 <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の活性化に向け、地域での話し合いによるビジョン策定（3地区）及びビジョン実践（2地区）を支援 ・日本型直接支払制度の取組支援（中山間地域等直接支払：145協定、1,272ha、多面的機能支払：212組織、18,692ha） 	<p>1 中山間地域活性化に向けた取組支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ビジョンの策定及び実践に対する支援 	<p>1 中山間地域活性化に向けた取組支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな地域ビジョン策定に向けたアドバイザーの派遣 ・地域ビジョン実践の取組を支援
	<p>【グリーン・ツーリズムの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに外国人観光客のニーズに対応した受入態勢整備が必要 ・食文化を継承し活用するための新たな「食の匠」候補者情報の収集・整理が必要 <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド旅行客の受け入れ拡大を図るため、外国人（台湾）向けPR動画を作成し、台湾エージェント向けPRを実施（11月） ・「食の匠」の掘り起しや伝承活動を支援（2人推薦） ・移住推進のため、移住モニターの受入れ・モニターによる情報発信を通じたPRを実施（10月、雫石町） 	<p>1 インバウンド旅行客の受入れ推進</p> <p>2 都市農村交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入農家等を対象とした郷土食や「食の匠」の技術伝承等の推進（1,2共通） 	<p>1 インバウンド旅行客の受入れ推進【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日教育旅行等のニーズ調査、企画立案、モニターツアー等の開催 ・農家民宿・観光農園等を生かしたファームステイの受け入れ態勢整備 <p>2 都市農村交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入農家等を対象とした「食の匠」との食の技交流・情報交換会を開催

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における 施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容
<p>9 森林資源の循環利用促進ともうかる林業・木材産業の構築を進めます</p>	<p>【担い手の確保・育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林福連携、外国人労働力等の新たな担い手確保の切り口の検討が必要 ・高齢化や規模拡大に対応するため、作業の効率化、労働強度の軽減や省力化が必要 <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林福イーハトープ通信の発行（隔月） ・林福相互による視察勉強会の開催（計2回予定） ・林福連携の試行的就業のマッチング支援（随時） ・外国人技能実習制度の事例視察（計2回予定） ・林業事業者等への空調服貸出及びアンケート調査（10着）【再掲】 ・ドローン活用のためのコストの調査（1回）【再掲】 	<p>1 新たな担い手の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林福連携による障がい者や生活困窮者の就業支援など新たな担い手確保対策の実証 ・外国人技能実習制度の活用の検討 <p>2 林業分野における新技術導入の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働強度の軽減等につながる技術の実証と普及 	<p>1 新たな担い手の確保【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の雇用現場や林業就労現場の視察勉強会、マッチング及び成果報告会を開催 ・外国人技能実習制度の国の動向や他県の事例の情報収集 <p>2 林業分野における新技術導入の促進【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調服の性能や効果等のモニタリング、結果の検証に基づく技術の普及 ・ドローン活用のコスト分析を行い、活用を促進
	<p>【地域材の利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅用木材の需要が減少しており、木材の利用拡大に向けたPRが必要 ・地域に豊富に存するアカマツと広葉樹の製材としての利用拡大に向けた取組が必要 ・子供達が木材に触れる機会が少ないため、木の良さをPRすることが必要 <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質化事例ハンドブックの作成（300部） ・店舗等の木質化支援（1箇所予定） ・木質化事例見学会の開催（1月予定） ・盛岡地域アカマツ等利用促進連絡会議の開催（11月予定） 	<p>1 店舗等の木質化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗等の木質化（リフォーム）支援 <p>2 アカマツ材等の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカマツや広葉樹を使用した製品を各種公共施設に設置 <p>3 地域材を活用した「木育」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが木の良さやその利用の意義を学ぶ「木育」の実施 	<p>1 店舗等の木質化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の店舗等の木質化（リフォーム）により、店舗利用者及び商店街他店舗にPR <p>2 アカマツ材等の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR盛岡駅等にアカマツ材テーブルセットを設置し、利用者にPR <p>3 地域材を活用した「木育」の実施【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の施設に木のおもちゃを設置し、子どもが木材に触れる機会を創出

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における 施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容
<p>9 森林資源の循環利用促進ともうかる林業・木材産業の構築を進めます</p>	<p>【原木しいたけ産地の再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木の安定確保や経営規模拡大等による生産基盤の強化が必要 ・生産者の高齢化等により生産量が減少しており、担い手の確保・育成が必要 ・国内外における情報発信や販路拡大等による販売流通の促進が必要 <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術勉強会の実施 (1月予定) ・若手生産者組織による懇談会の実施 (1月予定) ・台湾「裕毛屋」岩手県物産展開催(再掲、11月) ・盛岡地方原木しいたけフェアの開催 (1月予定) ・量販店や地域イベント等での販売促進 (5回) 	<p>1 原木しいたけ生産基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木の増産を支援するとともに、原木林の資源調査を実施 ・担い手の確保・育成を図る取組を支援 <p>2 販売流通の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者への情報発信を促進 ・乾しいたけの海外販路の開拓を促進 	<p>1 原木しいたけ生産基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内に原木を供給する原木コネクターの原木増産を支援 ・リモートセンシング等新技術の活用による原木資源調査を試験的に実施 <p>【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手生産者と後継者の交流会を開催 【拡充】 <p>2 販売流通の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手生産者が中心となり、原木しいたけの試食販売会を開催 ・乾しいたけの販売促進 【再掲】
	<p>【カラマツ林の黄葉等の情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内に豊富にあり、黄葉がすばらしいカラマツが観光PRの資源として活用可能 <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォトコンテストの開催 (募集期間～12/23) ・カラマツビューポイントマップの作成、公開 (2月予定) 	<p>1 カラマツの黄葉を観光資源として活用</p>	<p>1 カラマツの黄葉を観光資源として活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラマツの黄葉等と牧場、風車等の地域の特色を組み合わせた風景のインスタグラムによるPR及びフォトコンテストの開催 【拡充】

取組項目	現状と課題	令和2年度以降における 施策展開の方向性	令和2年度における具体的取組や事業内容
<p>10 地域産業の特性に応じた産業人材の確保・育成とやりがいを持って働くことができる労働環境の整備を進めます</p>	<p>・管内高校生の管内就職率は50%台で推移しており、地元定着の取組の強化が必要</p> <p>・人手不足が進む農林業及び建設分野についても、多様な観点から人材を確保していくことが必要</p> <p>(今年度の主な取組)</p> <p>【IT・ものづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> いわて情報産業就職フォーラムの共同開催 (3月予定(県立大、情産協、岩手大、産技短と共催)) キャリア教育の実施(計7回予定) 内訳:岩手大(7/3 81人、7/5 156人、10/30 153人、11/26 44人) 産技短(9/27 103人)、県立大(11/3 41人) 盛工(3月予定) ものづくり人材育成事業(盛岡広域地域活性化協議会事業) 出前授業(11/26)、工場見学(12月予定)対象:盛岡市立高校1年生 200人 企業ガイドブックの調製 管内41社掲載、管内高校34校に配架(令和元年度中に100社まで増予定) <p>【農業】(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> 求職希望者や福祉施設関係者等を対象とした農業体験見学会の開催 (5月、18人参加) <p>【林業】(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> 『林福イーハトープ通信』の発行(隔月) 林福相互による視察勉強会の開催(計2回予定) 林福連携の試行的就業のマッチング支援(随時) <p>【土木】(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> 管内中学を対象とした建設業の体験学習(6校) 県民を対象とした建設業の現場見学(1回) 	<p>2 産業人材の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 新卒人材と県内企業のマッチング等の支援 管内企業について新卒者向けの情報発信の強化 農林業、建設業等多分野における多様な担い手の確保の支援 	<p>1 産業人材確保対策事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 新卒人材と県内企業のマッチング支援及びキャリア教育支援 <ul style="list-style-type: none"> 学生、教員等とIT関連企業との交流研修会 学生・教員等への地域を志向したキャリア研修会 管内のIT企業・ものづくり企業等を網羅した企業ガイドブックの調製【拡充】 高校生等を対象とした管内ものづくり企業への工場見学及び出前授業の実施 盛岡広域圏高校生インターンシップ事業に参画し、共同実施【新規】 多様な分野における産業人材の確保対策【新規】 <ul style="list-style-type: none"> 農林福連携事例等の見学会・視察勉強会等の開催 建設業における中学生を対象とした体験学習、女性入職者と女性技術者との意見交換会 <div data-bbox="2012 961 2644 1430" data-label="Image"> </div> <p>(盛岡工業高校でのキャリア教育の様子)</p>
<p>11 産業経済活動を支える交通ネットワークを整えます</p>	<p>・盛岡以北の産業振興を支援する道路整備の推進や交通ネットワークのあり方の検討が必要</p> <p>・岩手医科大学移転に伴う交通の変化への対応が必要(再掲)</p> <p>(今年度の主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路改築事業(一般国道281号ほか6路線) 	<ol style="list-style-type: none"> 物流・交流ネットワークの整備 復興支援道路の整備 医療機関への救急搬送ルート of 整備 	<ol style="list-style-type: none"> 物流・交流ネットワークの整備 <ul style="list-style-type: none"> 道路改築事業 復興支援道路の整備 <ul style="list-style-type: none"> 道路改築事業 医療機関への救急搬送ルートの整備 <ul style="list-style-type: none"> 道路改築事業